



## 神戸への憧れ

一柳 公子  
(青森)

### このごろの私

昨年三月に退職した夫につきあい、近くの川の周辺を散歩。捨て難く持ち帰った実家の諸々の山と向き合う日々。コロナが収束して物欲のなき子等が家に帰る時までには何とかせねばと思っている。

百歳で母は逝きたり気丈にもひとり家をば守りつづけて側に住むわが任されし家の整理人生回顧の手がかりとなるアルバムの神戸の家や幼児期のわれの写真が昔を起こす神戸にて産まれ三歳で八戸へ戦火をのがれ父母の郷里に亡き父が大正七年八歳で書きし習字がありておどろく父母共に取り置く人とわかりたりその血をわれも確と継ぎたり捨てられぬ遺品の数々とりあへずわが家に運ぶせつせとはこぼ神戸への憧れ今も 生地ゆゑ訪ふたび心弾みてゐたり  
逝く前の数年間を母の髪託されじよじよに腕をあげたり母の髪切りし道具にわが髪を仕上げて行かんひとり美容院わが好む洋菓子サバラン亡き伯父も遠つ走りして求めしを知るビール飲むCM女優の多く居てうまさうに飲む堂々と飲む日本は「災前」にある意識もち生きねばならぬ島国なれば仕事一途家事一切をやらぬ夫草とりのみに精を出しをり先だつか残るかの会話夫として先に逝かれちや困るで終る



## 天人唐草

田中 愛子  
(埼玉)

このごろの私  
骨も血管年齢も実年齢より  
老いていることがわかった。  
一番の原因は運動不足とか。  
週三回ほど、五、六千歩ある  
こうと決めて、歩数計とスニ  
ーカーを購入する。が、ここ  
からの一歩がなかなか重い。

紅しやうが買ひに戻れるゆふぐれの道にはくれんもいちどあふぐ

人さらひるさうな春の昏れ方をとほく聞こえる犬を呼ぶ声

振り返り振り返り行きたいせつなもの多すぎるの小心者われ

片耳よりマスクをはづし水飲めり裸体みらるるやうな恥し<sup>ぢ</sup>さ

わかくさの若きふたりは走り来てバスに遅れておほわらひする

マンションにほつほつ灯り点きはじめ風は誰かを泣かせたくて吹く

顔のみを知る人多し三十二階建てマンションの七階に住み

あやまつていただかなくてよいのです。こどもがゐないことを告げても

英国の老婦のやうにゆるやかにストールはおりものおもふ春

外出をひかへる日頃ふるさとのてんにんからくさ見ずに春過ぐ

バファリンを拾ふと床にしやがみたる時にふうつと寄せる哀しみ

一杯分電子レンジであたためて淹れるインスタントコーヒーマシ

〈アマゾン〉より流れつきたるお知らせのレッド・ツェツペリンCD復刻

身とこころの老ゆる速さの遅速よりふつんふつんと悲しみは生る

ふたたびの〈中止〉にもはや驚かずしろじろと零る夕ざくらながむ